

仙台原町本通りまちなみ博物館構想—伝統的建築を活かして—

〔応募者名〕 勤務先名：一級建築士事務所 安井妙子あとりえ 勤務先住所：仙台市泉区将監十一丁目4-15
 連絡先（勤務先） TEL 022-778-4618 FAX022-778-4618

●地域性への配慮事項

筆者は原町本通りの伝統建築2棟の修復設計をする機会を得た。仙台市は昭和20年の空襲のため、市内中心部の大半が焼失したので、伝統的町家は壊滅したと言ってもよい。しかし仙台駅から東2kmほどを起点とする全長1.5kmほどの原町本通りは空襲をまぬがれ、多くの貴重な町家が残る。ところが工事期間中に、原町本通りの町家が次々と消失するのを見てしまった。これを食い止める方策は、どんな活動がよいものかと模索し始めた。

仙台市の策定した新基本計画に、まち全体をミュージアムと見立て、地域資源を展示品として、市民や来訪者が共に学び、楽しむことのできる都市を構築する市長の提唱する「ミュージアム都市構想」が各項目に盛り込まれている。そこで原町本通りの町家をミュージアムの展示品とすることが有効であると考えた。

●活動の概要

仙台市宮城野区は平成2年から地元学講座を開設、宮城野区民協議会はそれらを『地元学』『続地元学』の2冊にまとめた。そこでは人文、地理、民俗等を取り上げており建築そのものの記述はない。本研究活動

では町家に焦点を当て、ミュージアム資源化の有効手段を明らかにすることに努めた。

1 伝統的建造物の調査と図面作成、2 古民家庄司家、安附表具店において原町小学校での特別授業による教育活動、3 活動中に発生した東日本大震災発生による震災被害状況調査、4 「安附表具店」を想定しての古民家活用提案、5 活用実際の見本として鳥山米穀店、安附表具店を借りて「古民家de文化祭」の順に実施した。震災前の町家調査には主に宮城野区在住の建築士会会員の協力を得た。

●活動の特徴

1) 町家の調査は最も基本とし2月末日まで3回にわたり実施した。調査中取り壊し予定であることが判明した明治期の関村呉服店は文書で残そうと詳細な調査を行った。危機を感じ、3月7日に市長と市長室にて会見し、消失防止の有効なシステム構築を要求したところ、鋭意努力するという回答を得た。

2) 4日後の11日に震災が発生。以後調査が不可能になり、原町本通りの震災被害調査報告に変えた。

3) 伝統的建築に接する機会の少ない小学生に対して町家にて、和風の行儀作法など特別授業を実施した。

東日本大震災により学校全てが避難所と化し、大幅に授業時間が減ったにもかかわらず、原町小学校の校長をはじめ教職員はこの授業の価値を評価して計画通り実施してくれた。

4) 町家の保存活用により、住民の理解が深まり、さらに保存意識が高まることを期待して、安附表具店を児童館+デイサービス+カフェとする活用案を作成した。さらに活用実際として仙台七夕まつりにあわせて、「古民家de文化祭」と銘打ったお祭りを実施した。商工会会長をはじめとする会員諸氏は「震災でうなだれてばかりじゃつまらないから、楽しく派手にやろうよ」と大いに協力を惜しまなかった。

●活動の成果

特別授業でのことを書いた原町小学校6年生門間未悠さんの作文『原町の太陽・安附さん』が岐阜県恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」にて大賞を受賞した。「古民家de文化祭」は、継続は力なりと商工会に引き継がれ、2013年8月6日に第3回が実施された。2010年から2011年にわたる活動の報告書を3000部作成した。多くは原町小学校や商工会を通じて原町本通り住民に配布した。



昭和5年建築 安附表具店と
 明治7年建築 鳥山米穀店にて
 8月7日午後1時から
古民家de文化祭
 みんなでね！
 生ビール、ワッフル、健康セット、かき氷、うんち、水コップ、練炭花火、焼鳥
 開催場所：原町本通り2・3丁目内限 たくさんあるよ！
 鳥山米穀店：朝7時～18時
 安附表具店：1300～1900 開催
 古い建物のお勉強もできま～す

